

特集「輸出業務と海外規格」を企画して

特集担当編集委員 塩崎 修司

日本は物的資源が乏しく、故に人的資源を最大限に活用して経済的には貿易立国として成功し、今日に至っている。このビジネスモデルは今後も変わることなく続けなければならない。

よって海外規格、貿易実務、海外ビジネスにおけるリスクを知ることは海外に市場、資源を求める日系企業にとっては必須事項となる。これらの企業にとって、海外の規格や商習慣、実際にビジネスを行う上での障害を乗り越えるため、輸出入業務や海外規格に関する知識・ノウハウを取得したいという要望は多いのではないかと考えている。そういった要望の一助、あるいは最初の一步になればとの思いから本企画に着手した。

本特集では、輸出入業務や海外規格の基本的な知識から、実際にビジネスを行った場合の実例に至るまでを知ることができるように、著者各位にはご協力をいただいた。

まず、(株)国際認証機関の矢場田 幸男氏にはヨーロッパに輸出する上で必須となる CE マーキングの取得について「CE マーキング対応のガイダンス」と題して、対応すべき主要な指令についての考え方や概要について解説をいただいた。

また日本にとってビジネス上、欠かせない国となっている中国において、中国国内規格である ML 規格について、(株)クロセの山下 茂氏に「中国ボイラ圧力容器製造許可 (ML)」と題して説明をお願いした。

輸出業務においては各社で輸出貿易管理令における該非判定を行う必要があるが、その規制内容や考え方について、(株)栗本鐵工所の石井 透氏に「安全保障貿易管理について」と題して解説をお願いした。

また実際の輸出入業務の解説には、(株)辰巳商會の石田 大輔氏に「輸出実務および作業の流れ」の中で一連の実務について解説、紹介いただいた。

実際に海外で EPC (Engineering, Procurement, Construction) ビジネスを行うには数々の困難を伴うが、主な課題について海外プラント業務に精通した、(株)IHI の増村 富康氏に「海外 EPC ビジネスの進め方と課題」について解説いただいた。

またホットな話題としては最近問題になっている電動機高効率規制について、三菱電機(株)の藤田 尊大氏から「低圧三相誘導電動機の海外高効率化動向」と題して海外の状況を報告いただいた。

輸出入業務に携わる技術者にとってはその国々の規格、法規、実情に合致した設計、物流、工事などを考慮する必要があるが、全ての国に対応できるマニュアルは当然のことながら存在しない。

したがって輸出入の業務は、国ごとに対応は若干異なることになるが、本特集では規格についてはヨーロッパ、中国に絞り、実務やビジネスにおける課題、電気関係の話題を網羅させていただいた。

実際の輸出入業務の解説や海外規格は限られた紙面で解説することは困難であるとは承知していたが、著者各位には無理をお願いして極力、分かりやすく且つ入門書として役立つ内容で執筆いただいたつもりである。

紙面をお借りし御礼申し上げます。